

公益財団法人とかち財団の理事会機能の強化と新体制について

経済のグローバル化が進むなか、世界経済は相互依存を強め、景気の連動性はさらに高まっています。

また、TPP や EPA などの経済の自由化が進み、国内有数の農業地帯である十勝においても、世界経済の動きが直接的に多方面に大きく影響を及ぼすことが予測されています。

こうしたなか、オール十勝で TPP 対策や地方創生など地域経済の活性化に向けての取り組みが開始され、スマートアグリを展開、商品開発と海外展開も含めた販路開拓、創業・第二創業の推進などの産業振興が重要な課題となっています。

一方、とかち財団に対しては、「ものづくり支援」と「地域連携支援」を更に強化するとともに、主体的な事業展開が求められています。

このような取り巻く環境の変化や地域ニーズに、柔軟・的確かつ迅速に対応できる体制を整えることが急務であると認識し、業務執行機関である理事会の機能強化を図ることを目的とし、理事長の常勤化と副理事長の1名増員（「定款」並びに「役員及び評議員の報酬及び費用弁償に関する規則」の一部変更）について、6月15日の評議員会において決議いたしました。

この決議を受け、6月15日付の書面決議による理事会において理事長と副理事長について、下記のとおり選任し、新体制がスタートしました。

記

理事長 長澤秀行 （新任、常勤）

副理事長 有塚利宣 （留任）

副理事長 米沢則寿 （留任）

副理事長 高橋勝坦 （新任）

以 上